

共に生きよう!ハートフル 2011

このコースでは、自分たちで決めたテーマについて、自分たちの力で情報を集め、障がい者の問題に関わる体験活動を計画し、実行することを目指しています。さらに、障がい者の方と直接交流することで、障がいについて正しく知り、これまでの先入観や偏見、誤解を取り除くことを大切な目的としています。

◆◆◆グループ活動のテーマ◆◆◆

- A「バリアフリー」…(校内・学校周辺調査体験グループ)
- B「知的障がい者について」…(知的障がい調査・体験グループ)
- C「視覚障がいについて」…(盲導犬と点字調査・体験グループ)
- D「聴覚障がい」…(手話サークル体験・調査グループ)
- E「障がい者スポーツ」…(車いすバスケット体験・調査グループ)

◆◆◆共通体験プログラムⅠ…伏見工房(作業所)訪問◆◆◆☆

メンバー全員が、知的障がい者が働いている「伏見工房」の施設長の上村さんによる講演(9/14)を聞き、2日ずつ「伏見工房」に訪問して、共に働き、直接ふれあうことを通して、障がいについての理解を深めてきました。最初は、どう交流すればいいか不安で緊張しましたが、すぐに慣れて、自分たちに偏見や先入観が間違いであったことに気づかされました。普段ではできない貴重な体験でした。

(上村さんのお話…事前学習)

(作業の様子…箱折り作業)



◆◆◆共通体験プログラムⅡ…京都ライトハウス訪問◆◆◆☆

10/5に全員で京都ライトハウス(北区)を訪問。全盲である職員の横田さんから直接、施設の紹介、手引き、障がい者でもできるゲームやスポーツ、点字などを実演を交えて説明していただきました。

(横田さんのお話)

(点字図書室での様子)



◆◆◆グループ活動内容◆◆◆

A「バリアフリー」…(校内・学校周辺バリアフリー調査)



校内のバリアフリーの状態や丹波橋駅付近の状態を車いすを通して調査。ちょっとした段差や傾斜でも大きなバリアであることや北校舎と南校舎ではバリアフリーの格差が大きいことを実感しました。また、施設面の問題だけではなく、私たちが障

がい者の立場になって考える意識の大切さがわかりました。

B「知的障がい者について」…(伏見工房訪問と知的障がい調査)

伏見工房での体験を中心に、今まで知らなかった「知的障がい」の内容や就職状況、支援のための法律などについて調べました。私たちが抱いていた今までの偏見に客観的に気づくことができました。



C「視覚障がいについて」…(盲導犬と点字調査・体験)



点字について調べたり、関西盲導犬協会(亀岡市)を訪問見学して、盲導犬の訓練の様子や育成費用、その活用の実態、問題点などを詳しく調査して、わかりやすくまとめることができました。

D「聴覚障がい」…(手話体験、手話サークル訪問)

伏見区で活動している手話サークル「つどい」を訪問。手話通訳ボランティアの方や聴覚障がい者の方の協力を得ながら自己紹介や質疑応答を手話を交えて体験。本校の学校名を表す言葉を手話で学んだり、生活上で困っていることなども直接インタビューできました。



E「障がい者スポーツ」…(車いすバスケット疑似体験)

世界や日本で行われている障がい者スポーツの種類を調べたり、実際に車いすに乗って、バスケットを疑似体験しました。上半身だけでは、思うようにシュートできないことや、スポーツすることの楽しさは、すべての人が共有できるものだとわかりました。



◆◆◆コース内発表◆◆◆

全グループともパワーポイントを使って発表しました。それぞれの発表の後、質疑応答しながら意見交流をして、自分たちの学習の意義を確認しました。



◆◆◆このコースで学んで◆◆◆ (コース内発表後の感想より)

●まず障がい者について、「知る」ということが大切だと思った。今まで、障がいに関する知識はほとんどなかったが、手話について知ったことで、初めて聴覚障がいを持つ人と会話することができたり、聞こえない中で積極的にコミュニケーションをとろうとする姿に接する事ができた。METで学んだ手引きや手話での自己紹介ができることなど、将来役立つことがあるように思った。

●学べたことで1番大きなことは、障がいのない私たちが当たり前だと思っはいけないということだ。障がいを持つ人が私たちと同じ社会の中でたくさん生きていることを忘れてはいけない。決して差別したり偏見を持ってはいけないことを学んだ。様々な人が共に生きられる社会についてまた考えていきたいと思う。

●今まで知的障がい者に対するイメージは正直悪いものばかりだった。敬遠したり、偏見を持っていた。でも今回のMETで、完全に偏見がなくなったわけではないが、自分が間違っていた認識をしていたことが多くて驚いた。

(全体発表担当)